二〇二一年度　西脇市人権啓発作品

人権大賞　ベトナムの女の子フーちゃん

吉原　洋子さん

私は毎週水曜日に電車で東加古川まで木目込み人形の教室に通っている。

ある日のこと私が電車のいつもの席に座っていると、かわいい女の子が「この電車、加古川に行きますか」と尋ねてきた。私は「行きますよ」と言い、「どこまで行くの」と問いかけると「堺市までです」と言った。私は「どうぞ」と言うと、彼女は私の隣に座った。

少しアクセントの違う日本語だったので「どこの国から来たの」と問いかけると「ベトナムのフエからです。知っていますか」と言われたので「知っているよ、ベトナムには何度か行ったよ。食べ物がとても美味しいよね」と言うと彼女はとても喜んだ。彼女は昨年就職のため友人三人と日本に来た。彼女は堺市の食肉工場に勤めているが、西脇市内で働いている友達に会うために休みの日に来ていたのだ。「どうして日本に来たの」と聞くと指で丸を作った。どうも給料がいいからしい。毎月の給与から十万円を両親に送っているそうだ。両親はフエで小魚を捕って生活しているが、家はとても貧しいのと言っていた。

加古川に着くまでに、一緒に写真をとっていいと言われ、記念に写真をとった。写真を送るのでラインを教えて欲しいと言われた。少し不安な私もいたが、話をしていて信頼してみようと思う私もいた。その夜「今日はありがとうございました。楽しかったです」というラインが届いていた。嬉しかった。

それから毎週水曜日に駅で彼女が待っていた。電車での一時間が楽しくなった。彼女はベトナムから一緒に来た友達のことや、仕事のこと、家族のこと、自分の夢など色々な話をしてくれた。仕事は週に一度休みがあり、会社の寮でベトナムから来た仲間と三人一室で暮らしていると言った。食事は同室の三人で順番にベトナム料理を作っているそうだ。ベトナムから来ていると言っても地域が違うと味が全然違うのと笑っていた。将来は英語を勉強してアメリカに行きたいと言っていた。

英語の勉強法や日本語の勉強法も話してくれすごく頑張っているのがよく分かった。

正月に西脇に来るなら、わが家においでと言っていたが、それからしばらく彼女と会うこともなく、連絡もしてこなかった。

久しぶりに彼女が駅で待っていた。今までとは違う元気のない彼女だった。「どうしたのだろう」と思ったが、何も聞かなかった。それを最後に、彼女と会うことはなかった。

日本で元気に頑張っているのだろうか。それとも、住んでいる地域で友達が出来たのだろうか。幸せに過ごしていれば良いが…。

彼女と会ってから西脇にいる多くの国の人のことを思った。会えばできるだけ「今日は」と声を掛けた。「どこから来ているの？日本語分かる？英語は？」と聞くようにしている。私のカタコトの英語で話が出来ればなんだかとても嬉しいし、とても楽しい。あたらしい出会いがあれば、もっと西脇のことや、日本のことを知って貰いたいと思う。

優秀賞　新しい出会いの中で

錦織　優理さん

私が西脇市で住み始めてもうすぐ四年が経とうとしています。就職を機に引っ越してきた私にとって、西脇市は縁もゆかりもない場所。右も左も分からず、不安や孤独と闘う日々が続きました。そんな私を救ってくれたのが様々な人との出会いでした。まずは同じ職場の方々です。その頃の私はきっととても弱っているように見えたと思います。私の気持ちを察して明るく声を掛けてくれ、ここのスーパーがお得、あそこの店は美味しいなど役に立つことを多く教えてくれました。そんな些細な心遣いがとても温かく励みになりました。

少しずつ新生活に慣れてきた頃、私はある人と出会いました。それが今の主人です。職場の先輩の繋がりで出会った彼は、私をいろいろな場所へ連れていってくれました。それまでの私はどこにいても慣れない道、知らない人ばかりで、周囲からよそものに思われているような気がしていました。彼はそんな私の不安をかき消すかのように、一つひとつ思い出の場所を増やしていってくれました。ある連休のことです。実家に帰省していて西脇市に戻ってきた時、車の外の景色を見て、私は初めて〝帰ってきた〟という思いになったのです。自分の居場所はここなんだと感じることができました。いつも見ていた景色が全く違って見えた日でした。

その後私は結婚し、子どもを授かりました。仕事に家事に、子育てと目まぐるしく過ぎる日々の中で、新しい出会いもありました。アパートの隣人と日々の挨拶をきっかけに仲よくなったり、子育てふれあいセンターや産婦人科で知り合ったお母さんと後に連絡を取り合う仲になったりもしました。いろんな人に支えられて、今の私があると実感しています。

今のご時世、コロナウイルスの流行や、不気味な事件が多発していることで、人との繋がりが薄くなってきているのが現状です。皆新しい出会いを拒み、知らない人との関わりを避け、自分や大切な人を守るようにして生きているように感じます。でも私は西脇市に引っ越してきて、多くの方の存在に救われました。誰かと繋がり合うことは自らの人生を豊かにするだけでなく、自分がその場所で生きている証にもなるのだと身をもって体験しました。もともと人との出会いとはかけがえのないものであり、素晴らしいことなのだと今を生きる少しでも多くの人たちが感じられる世界になればと思います。

私の母は、昔からよく「人との縁を切ることのないよう、繋がりを大切にしなさい」と言っていました。今はその意味がよく分かります。過去の私のように、不安や孤独を抱えながら生きている人はきっと多くいると思います。自らの出会いや繋がりの中で、そうした人たちに少しでも手を差し伸べられる人でありたいです。そうして、人と人とが助け合って生きる世の中になっていくことを願っています。

西脇市ホームページでは、その他の人権啓発作品もご覧いただけます

エッセイ部門　優秀賞「差別のない社会をめざして」飛田　昌代さん

優秀賞「山里での出会い」八馬　順子さん

ポスター部門　人権大賞　篠原　笑美さん

優秀賞　亀谷　夏葉さん　篠原　隆浩さん